

# 最近の道内経済動向

○道内景気は、新型コロナウイルスの影響を主因に依然として厳しさが続いているが、一部に底離れの兆しがみられる。

○先行きは、個人消費の緩やかな持ち直しなどに伴い、全体としては徐々に上向いていくとみられる。

※法人企業景気予測調査（7～9月期）による景況判断 BSI（全産業）は、マイナス6.8と前期（4～6月期：マイナス47.5）から大幅に上昇し、「下降」超幅が縮小した（右下図表参照）。

（注）基調判断は、2020.9.24時点入手可能な主要経済指標を参考とした（7～8月実績が中心）。

## ●個人消費は底離れしている

7月の主要6業態別小売店販売額（全店）をみると、百貨店やコンビニエンスストアが前年実績を下回ったものの、スーパーなど4業態が前年実績を上回った。一方、7月の乗用車新車販売台数は10ヵ月連続で減少したもの減少幅は縮小した。

（注）主要6業態とは、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、及びホームセンターを指す。

## ●観光は厳しい状況となっている

7月の来道者数（国内交通機関経由）は、前年比▲66.9%と6ヵ月連続で前年実績を下回った。8月の外国人入国者数は、同▲100.0%と11ヵ月連続で前年実績を下回った。6月に国内での移動制限が解除されたものの、道外客の動きは鈍く、海外客は止まつたままであり、依然として厳しい状況が続いている。

（注）外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線（航空、JR、フェリー）利用による旅客数（国内客と道外で入国手続きした外国人客）を指す。

## ●設備投資は減少傾向にある、公共工事は堅調に推移している、住宅建築は低迷している

北海道財務局発表の法人企業景気予測調査（7～9月期）によると、20年度の設備投資計画（全産業、含むソフトウェア、除く土地）は、前年比▲3.3%となった。前年度における大型投資の一巡に加えて、企業業績の悪化や先行き不透明感の強まりが投資マインドを下押ししている。公共工事は、既発注分を含めた出来高ベースで増加している。しかしながら、8月の公共工事請負金額は、前年比▲1.2%（730億4百万円）と2ヵ月連続で前年実績を下回った。発注機関別にみると、鉄道・運輸機構の発注増加を受けた独立行政法人等が5ヵ月連続で前年を上回ったものの、国、市区町村などが前年実績を下回った。新設住宅着工戸数（7月）は、前年比▲16.7%と5ヵ月連続で減少。利用関係別にみると、持家が4ヵ月連続、貸家が5ヵ月連続、分譲住宅が2ヵ月連続で減少した。

## ●生産は低迷している

7月の鉱工業生産は、前月比▲0.8%と2ヵ月ぶりに低下した。大規模改修に伴い「鋼半製品」が減産となった鉄鋼業に加え、定期修理に伴い「石油製品」が減産となった化学・石油石炭製品が全体を押し下げた。

## ●輸出は低迷している

8月の通関輸出額（速報値）は、前年比▲28.9%（160億円）となり、13ヵ月連続で前年実績を下回った。品目別では、アジア向け「鉄鋼」や「電気機器」などの減少が全体を押し下げた。

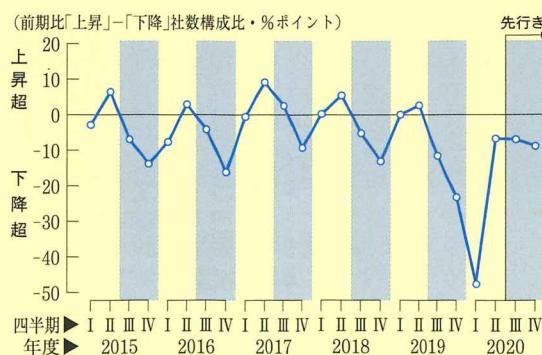
## ●雇用情勢は弱い動きがみられる

7月の有効求人倍率（パート含む常用）は、前年比0.26ポイント低下の0.95倍となり、7ヵ月連続で前年実績を下回った。飲食業や観光関連産業を中心に悪影響が強まっている。

### 法人企業景気予測調査（7～9月期） 景況判断 BSI（北海道地方）

道内企業の景況判断 BSI（全産業、以下、BSI）をみると、2020年7～9月期は、マイナス6.8と前期（4～6月期：マイナス47.5）から40.7ポイント上昇し、「下降」超幅が大幅に縮小した。

一方、先行きのBSIをみると、10～12月期（マイナス7.0）、21年1～3月期（マイナス8.9）と、「下降」超幅が小幅に拡大するものの、ほぼ横ばいの見通しとなっている。



（注） 年度後半（10～12月期、1～3月期）をシャドーとした。  
(出所) 北海道財務局「法人企業景気予測調査（2020年7～9月期【北海道地方の概要】）」